

平成19年度 学校保健統計調査結果の概要

調査の範囲 対象

調査対象となった幼児、児童、生徒数は表1のとおりです。

表1 調査対象幼児・児童・生徒数

区 分	調 査 実 施 学 校 数 (校)	調 査 対 象 者 数 (人)					
		発 育 状 態 調 査			健 康 状 態 調 査		
		合 計	男	女	合 計	男	女
幼 稚 園	34	1,358	671	687	2,448	1,205	1,243
小 学 校	60	5,599	2,794	2,805	28,508	14,591	13,917
中 学 校	40	4,591	2,248	2,343	19,171	9,527	9,644
高 等 学 校	29	2,484	1,239	1,245	23,675	12,446	11,229
合 計	163	14,032	6,952	7,080	73,802	37,769	36,033

体格の発育状態

1 身長・体重・座高の京都府平均値及び全国との比較

(第1表、第2表)

平成19年度の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園における児童、生徒及び幼児の身長、体重及び座高の京都府平均値を年齢別にみると第1表のとおりです。

【身長】

男子は5歳、7歳及び9歳の各年齢で、前年度の同年齢より伸びています。各年齢間の身長差は12歳と13歳の間(7.5cm)が最も大きく、次いで11歳と12歳の間(7.2cm)が大きくなっています。全国平均値と比較すると、5歳、7歳及び14歳から17歳の各年齢で全国平均値を上回っています。

女子は8歳、11歳から14歳及び17歳の各年齢で、前年度の同年齢より伸びています。各年齢間の身長差は10歳と11歳の間(7.2cm)が最も大きく、次いで9歳と10歳の間(6.6cm)が大きくなっています。全国平均値と比較すると、11歳から17歳の各年齢で全国平均値を上回っています。

10歳及び11歳では、女子の身長が男子の身長を上回っています。

【体重】

男子は5歳及び17歳の各年齢で前年度の同年齢より増えています。各年齢間の体重差は、12歳と13歳の間(5.6kg)が最も大きく、次いで11歳と12歳の間(5.3kg)が大きくなっています。全国平均値と比較すると、17歳を除く各年齢で全国平均値を下回っています。

女子は10歳、12歳、16歳及び17歳の各年齢で前年度の同年齢より増えています。各年齢間の体重差は、11歳と12歳の間(4.9kg)が最も大きく、次いで10歳と11歳の間(4.6kg)が大きくなっています。全国平均値と比較すると、すべての年齢で全国平均値を下回っています。

10歳から12歳では、女子の体重が男子の体重を上回っています。

【座高】

男子は5歳、7歳、12歳及び16歳の各年齢で前年度の同年齢より伸びています。各年齢間の座高差は、11歳と12歳の間(3.8cm)が最も大きく、次いで12歳と13歳の間(3.7cm)が大きくなっています。全国平均値と比較すると、6歳及び8歳から11歳を除く各年齢で全国平均値を上回っています。

女子は11歳の年齢で前年度の同年齢より伸びています。各年齢間の座高差は、10歳と11歳の間(3.8cm)

が最も大きく、次いで5歳と6歳の間(3.0cm)が大きくなっています。全国平均値と比較すると、11歳から17歳の各年齢で全国平均値を上回っています。

9歳から12歳では、女子の座高が男子の座高を上回っています。

2 親の世代(30年前の昭和52年度の数值)との比較

(第3表、図1)

【身長】

平成19年度の身長を親の世代(30年前の昭和52年度の数值)と比較すると、最も差がある年齢は男子では13歳で2.7cm高く、次いで12歳で2.5cm高くなっています。女子では5歳で親の世代より3.0cm高く、次いで12歳で1.8cm高くなっています。

【体重】

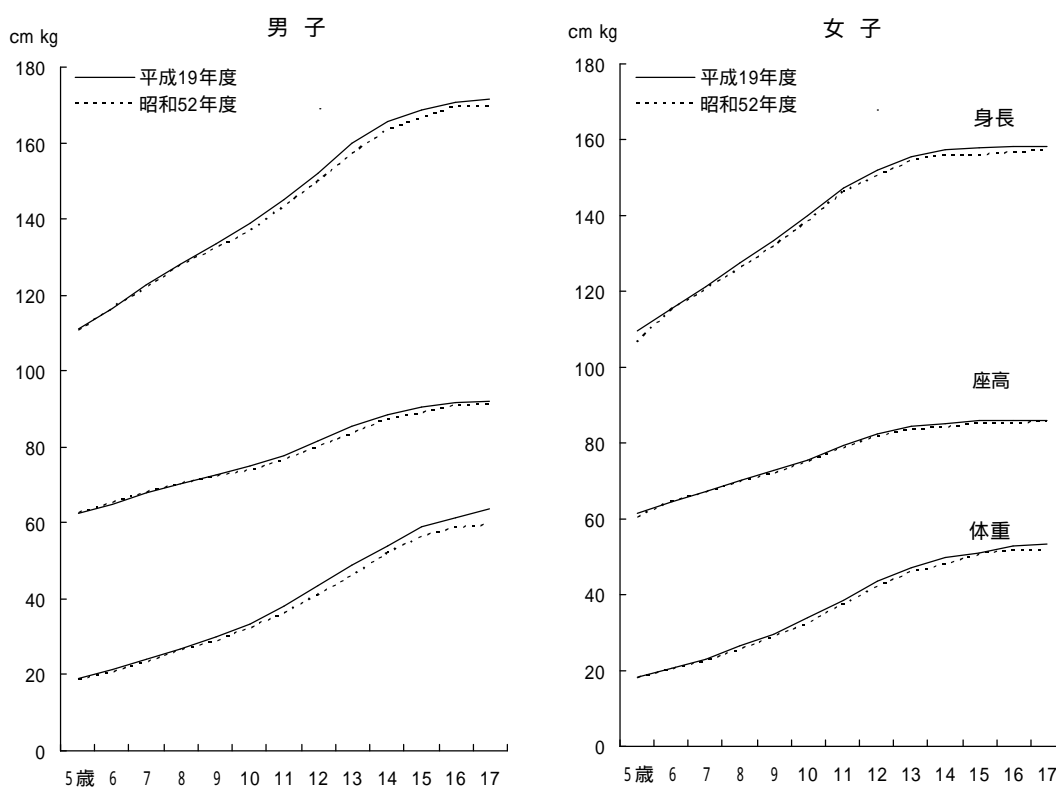
平成19年度の体重を親の世代と比較すると、最も差がある年齢は男子では17歳で4.3kg重く、次いで13歳で3.2kg重くなっています。女子では10歳で親の世代より1.8kg重く、次いで12歳及び14歳で1.7kg重くなっています。

【座高】

平成19年度の座高を親の世代と比較すると、最も差がある年齢は男子では13歳で1.8cm高く、次いで12歳で1.7cm高くなっています。女子では5歳で親の世代より1.3cm高く、次いで14歳で1.2cm高くなっています。

身長から座高を引いた足の長さについて親の世代と比較すると、最も差がある年齢は男子では10歳で1.4cm長く、次いで14歳で1.2cm長くなっています。女子では5歳で親の世代より1.7cm長く、次いで8歳で1.1cm長くなっています。

図1 年齢別体格の状況



【親の世代の17歳の体格(身長・体重・座高)との比較】

親の世代の17歳の体格をみると、男子では、身長は現在の15歳(168.8cm)、体重は現在の15歳(59.0kg)、座高は現在の15歳(90.5cm)にほぼ相当し、女子では、身長は現在の14歳(157.4cm)、体重は現在の15歳(50.9kg)と16歳(52.9kg)の間、座高は現在の14歳(85.3cm)にほぼ相当しています。

30年前の17歳より、男子では概ね2歳、女子では概ね3歳早く発育が進んでいます。

3 親の世代(昭和34年度生まれ、昭和52年度17歳)との年間発育量についての比較

(第4表、第5表、図2、図3)

【身長】

男子17歳(平成元年度生まれの者。以下「子の世代」という)の年間発育量をみると、「11 12歳」に最大の発育量を示しています。また、この発育量を親の世代(昭和34年度生まれ、昭和52年度17歳)と比較すると、親の世代は子の世代と同じ「11 12歳」に最大の発育量を示していますが、「13 14歳」以下の発育量は、子の世代が54.4cmと、親の世代の54.1cmを上回っています。

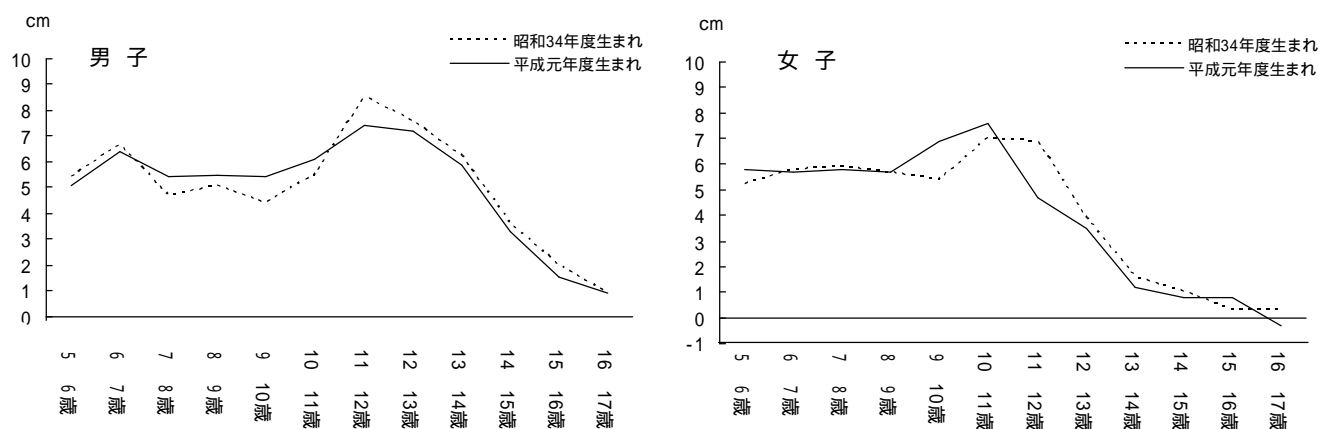
男子の5歳から17歳までの総発育量は、親の世代のほうが60.6cmと、子の世代の60.1cmを0.5cm上回っており、5歳では子の世代が2.3cm上回っていた身長差が、17歳では1.8cmに縮小しています。

女子17歳(子の世代)の年間発育量をみると、「10 11歳」に最大の発育量を示しています。また、この発育量を親の世代と比較すると、親の世代は子の世代と同じ「10 11歳」に最大の発育量を示していますが、「11 12歳」以下の発育量は、子の世代が42.2cmと、親の世代の41.9cmを上回っています。

女子の5歳から17歳までの総発育量は、親の世代のほうが49.0cmと、子の世代の48.2cmを0.8cm上回っており、5歳で子の世代が1.9cm上回っていた身長差が、17歳では1.1cmに縮小しています。

最大の発育量を示す年齢を子の世代の男女で比較すると、女子のほうが男子に比べ1歳早くなっています。

図2 年間発育量の比較(身長)



【体 重】

男子17歳(子の世代)の年間発育量をみると、「12 13歳」に最大の発育量を示しています。また、この発育量を親の世代と比較すると、親の世代は子の世代より1歳早い「11 12歳」に最大の発育量を示しています。

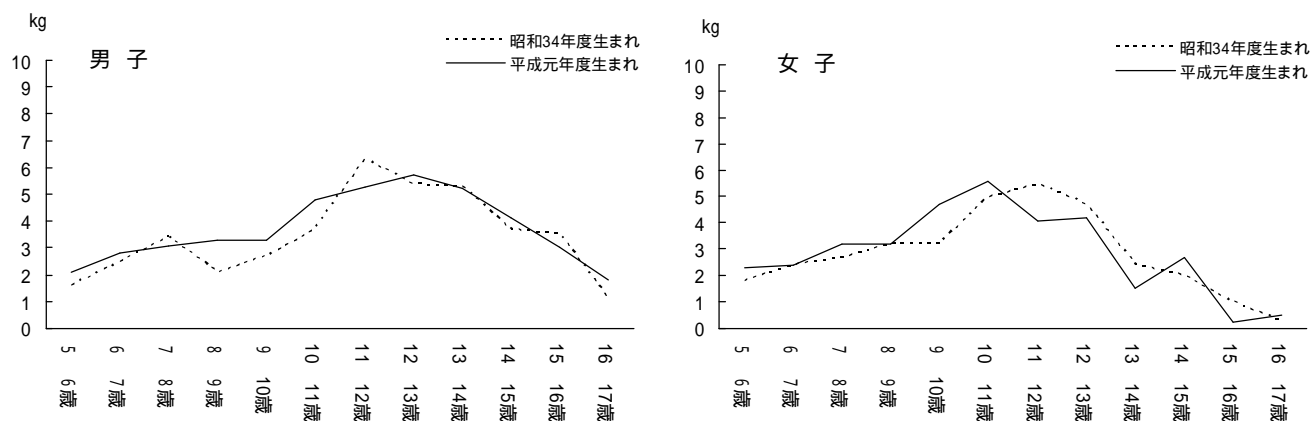
男子の5歳から17歳までの総発育量は、子の世代のほうが44.5kgと、親の世代の41.3kgを3.2kg上回っています。

女子17歳(子の世代)の年間発育量をみると、「10 11歳」で最大の発育量を示しています。また、これを親の世代と比較すると、親の世代は子の世代より1歳遅い「11 12歳」に最大の発育量を示しています。

女子の5歳から17歳までの総発育量は、子の世代のほうが34.6kgと、親の世代の34.2kgを0.4kg上回っています。

最大の発育量を示す年齢を子の世代の男女で比較すると、女子のほうが男子に比べ2歳早くなっています。

図3 年間発育量の比較(体重)



注 昭和45、46年度及び昭和47年度(12歳女子体重)の府数値資料については不詳等のため、全国の平均値を掲載しています。

(関連図表: 図2及び図3の昭和34年度生まれの9 10歳、10 11歳、11 12歳、12 13歳(女子体重)、第4表の昭和34年度生まれの10歳、11歳、12歳(女子体重)、第5表の昭和34年度生まれの9 10歳、10 11歳、11 12歳、12 13歳(女子体重))

健康状態

1 疾病・異常の被患率等別の状況

(表2)

疾病・異常を被患率等別にみると、いずれの学校段階においても「むし歯(う歯)」、「裸眼視力1.0未満の者」が高くなっています。

表2 疾病・異常の被患率等

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
90%以上					
80%以上 - 90%未満					
70 - 80					
60 - 70		むし歯(う歯)		裸眼視力1.0未満の者、 むし歯(う歯)	
50 - 60			むし歯(う歯)		
40 - 50	むし歯(う歯)		裸眼視力1.0未満の者		
30 - 40	裸眼視力1.0未満の者				
20 - 30		裸眼視力1.0未満の者			
10 - 20		鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患		
1 ~ 10	8 ~ 10			鼻・副鼻腔疾患	
	6 ~ 8	鼻・副鼻腔疾患	眼の疾病・異常、耳疾患	眼の疾病・異常	
	4 ~ 6	耳疾患、アトピー性皮膚炎	歯列・咬合、アトピー性皮膚炎	耳疾患、歯列・咬合、歯垢の状態、歯肉の状態、心電図異常	眼の疾病・異常、歯肉の状態、心電図異常
	2 ~ 4	眼の疾病・異常、口腔咽喉頭疾患・異常、歯列・咬合	歯垢の状態、栄養状態、心電図異常、ぜん息	アトピー性皮膚炎、蛋白検出の者、ぜん息	耳疾患、歯列・咬合、歯垢の状態、アトピー性皮膚炎、蛋白検出の者
	1 ~ 2	歯・口腔のその他の疾病・異常、その他の皮膚疾患	口腔咽喉頭疾患・異常、歯肉の状態、歯・口腔のその他の疾病・異常、心臓の疾病・異常、その他の疾病・異常	栄養状態、心臓の疾病・異常、その他の疾病・異常	歯・口腔のその他の疾病・異常、栄養状態、心臓の疾病・異常、ぜん息、その他の疾病・異常
0.1 ~ 1	0.5 ~ 1	心臓の疾病・異常、ぜん息	難聴、せき柱・胸郭、蛋白検出の者、寄生虫卵保有者、言語障害	口腔咽喉頭疾患・異常、歯・口腔のその他の疾病・異常、せき柱・胸郭	難聴、せき柱・胸郭
	0.1 ~ 0.5	歯垢の状態、栄養状態、せき柱・胸郭、蛋白検出の者、言語障害	顎関節、その他の皮膚疾患、尿糖検出の者、腎臓疾患	難聴、顎関節、その他の皮膚疾患、尿糖検出の者、腎臓疾患、言語障害	口腔咽喉頭疾患・異常、顎関節、その他の皮膚疾患、尿糖検出の者、腎臓疾患
0.1%未満	寄生虫卵保有者、その他の疾病・異常	結核		結核、言語障害	

- 注 1 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常のある者等である。
 2 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、舌小帯異常、た石等のある者等である。
 3 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。
 4 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。
 5 「その他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常である。

2 主な疾病・異常等

(表3、第6表)

表3 主な疾病・異常等の推移総括表

区分		裸眼視力1.0未満の者	耳疾患	鼻・副鼻腔疾患	口腔疾患咽・喉異常	むし歯(う歯)	アトピー性皮膚炎	心電図異常	蛋白検出の者	寄生虫卵保有者	ぜん息
		(%)									
幼稚園	平成9年度	18.8	2.5	3.6	4.1	70.2	0.2	2.1	0.9
	15	18.4	4.2	7.5	5.9	52.9	0.2	0.3	0.7
	16	21.2	2.8	6.8	2.2	52.4	0.6	0.4	1.0
	17	23.2	1.7	3.4	5.6	52.7	0.2	0.6	0.6
	18	31.8	1.5	2.7	1.7	58.0	6.7	...	0.3	0.3	1.8
小学校	平成9年度	26.4	5.0	14.8	2.0	80.1	...	4.1	0.5	3.6	2.1
	15	24.9	5.8	14.4	2.5	69.6	...	3.6	0.6	1.3	2.8
	16	25.7	6.1	13.4	1.3	66.1	...	3.6	0.4	1.5	2.8
	17	27.8	6.2	15.0	1.0	62.5	...	2.7	0.6	0.6	2.8
	18	27.7	6.9	13.8	2.3	64.5	4.6	4.5	0.5	1.0	3.9
中学校	平成9年度	29.2	6.8	13.0	1.1	60.0	4.8	3.8	0.6	0.7	3.3
	15	48.8	2.8	13.4	0.7	78.1	...	4.7	1.1	...	1.3
	16	42.2	3.5	14.2	0.9	61.5	...	5.0	1.4	...	2.4
	17	45.5	3.7	10.9	0.7	58.7	...	3.5	1.4	...	2.8
	18	46.5	4.5	12.5	0.7	56.1	...	4.5	1.6	...	2.3
高等学校	平成9年度	56.0	4.6	11.3	0.5	57.4	3.4	4.7	1.5	...	2.9
	15	49.8	4.8	12.4	0.8	54.4	2.9	5.2	2.4	...	3.1
	16	64.8	2.0	7.8	1.0	86.0	...	4.0	0.7	...	0.6
	17	66.3	2.4	13.0	0.5	73.1	...	3.9	1.2	...	1.2
	18	62.7	2.3	9.1	0.4	70.9	...	4.7	1.5	...	1.3
高等学校	17	58.1	2.2	12.8	0.5	67.3	...	4.1	1.3	...	1.1
	18	66.5	2.0	9.9	0.5	69.5	2.7	4.3	1.8	...	1.6
高等学校	19	65.9	2.4	9.2	0.2	62.6	2.8	5.7	2.5	...	1.3

- 注 1 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。
 2 寄生虫卵保有者については、5歳から8歳のみ実施している。
 3 アトピー性皮膚炎については、平成17年度まではその他の疾病・異常のその他の疾病・異常として調査

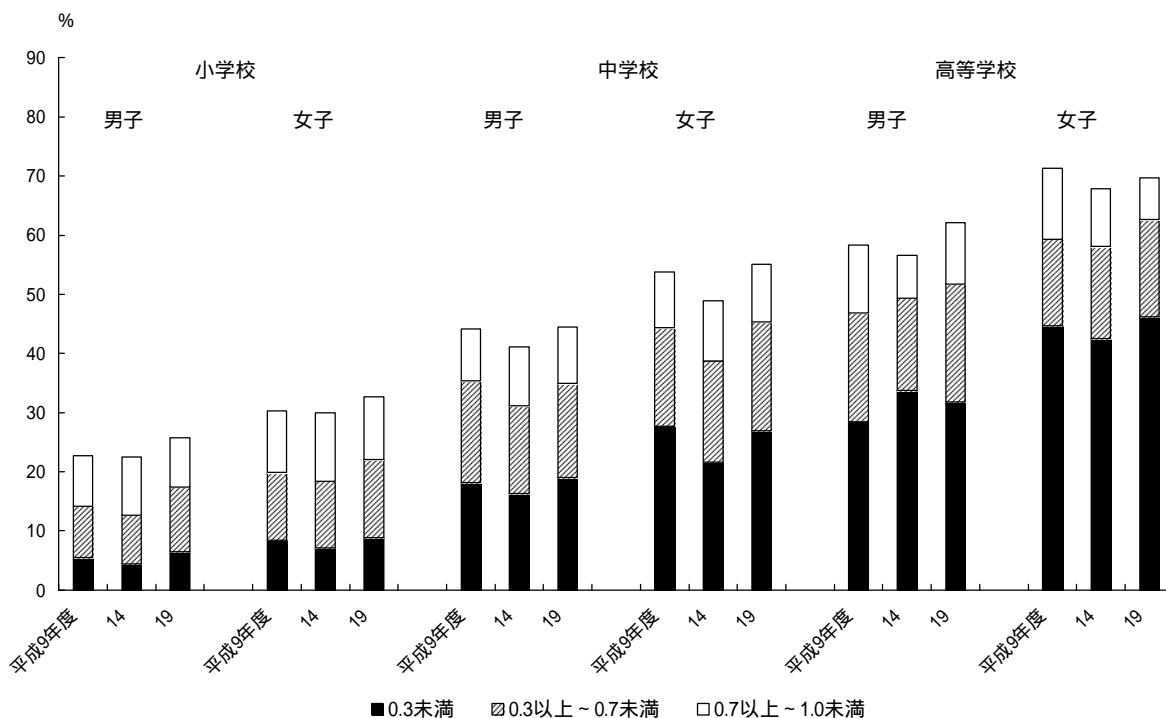
【裸眼視力1.0未満】

(図4)

平成19年度の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、幼稚園31.0%、小学校29.2%、中学校49.8%、高等学校65.9%となっており、前年度と比べると小学校を除く各学校段階で低下しています。10年前の平成9年度と比較すると、すべての学校段階で上昇しています。全体的に男子より女子の被患率が上回っています。

全国平均値と比較すると、京都府は中学校を除く各学校段階で上回っています。

図4 裸眼視力1.0未満の者の推移



【鼻・副鼻腔疾患】

(表3、第6表)

平成19年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎等)の者の割合は、幼稚園7.1%、小学校13.0%、中学校12.4%、高等学校9.2%となっており、前年度と比べると幼稚園及び中学校では上昇し、小学校及び高等学校では低下しています。

全国平均値と比較すると、京都府はすべての学校段階で上回っています。

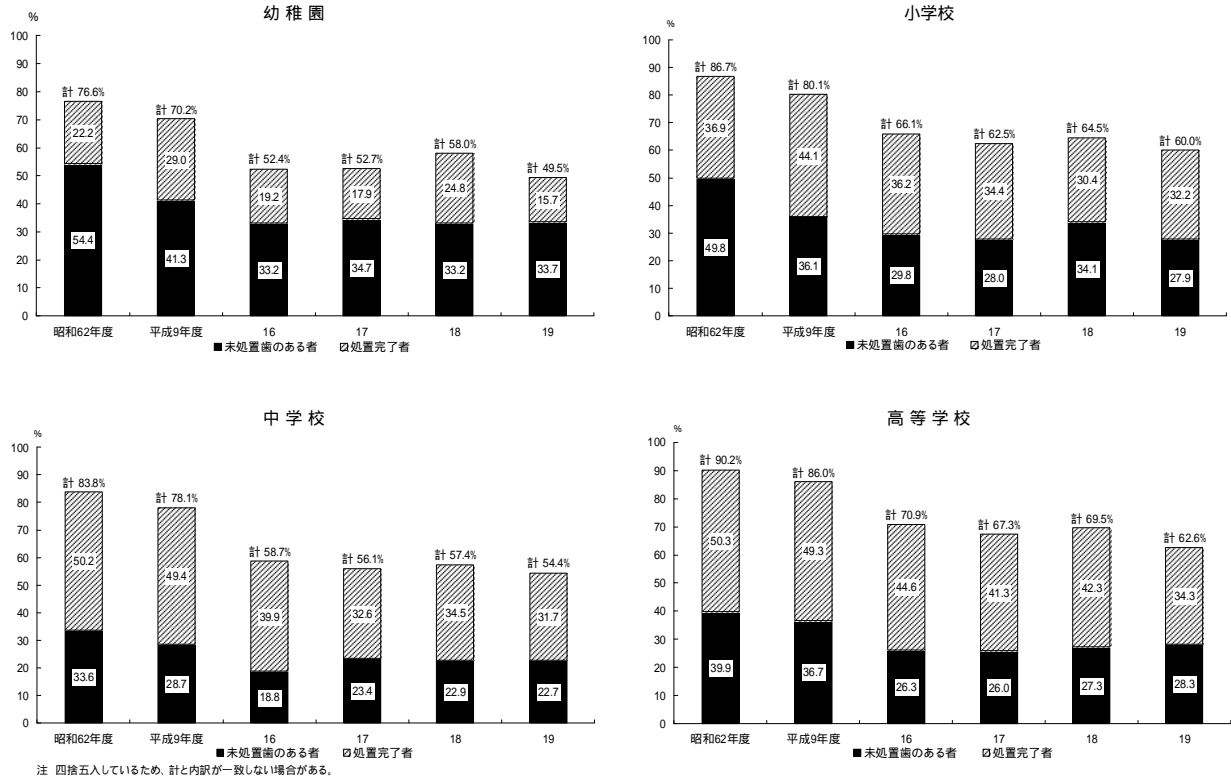
【むし歯(う歯)】

(図5)

平成19年度の「むし歯」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ)は、幼稚園49.5%、小学校60.0%、中学校54.4%、高等学校62.6%となっており、前年度と比べるとすべての学校段階で低下しています。20年前の昭和62年度と比較すると、昭和62年度はすべての学校段階で「むし歯」の者の割合が75%を超えていましたが、低下傾向にあります。

全国平均値と比較すると、京都府はすべての学校段階で下回っています。

図5 むし歯(う歯)被患率の推移



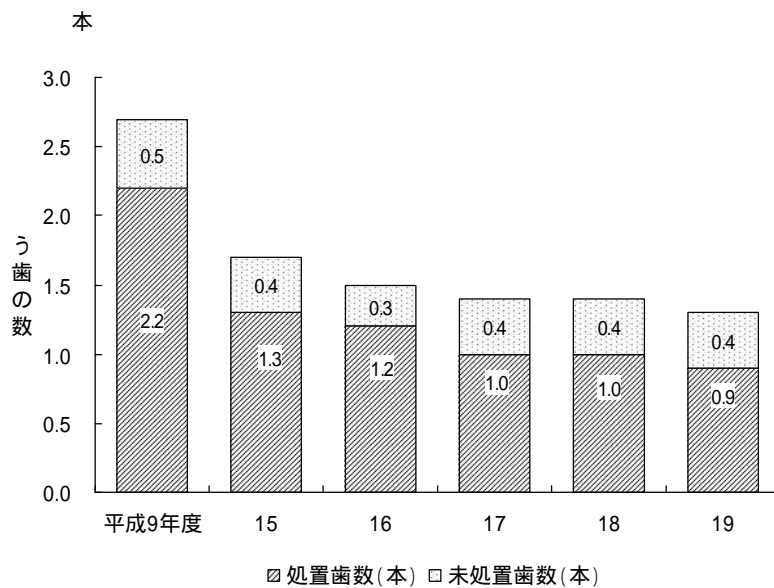
【12歳の永久歯の1人当たり平均むし歯(う歯)等数】

(図6)

12歳の永久歯の1人当たり平均むし歯等(喪失歯及びむし歯)の「むし歯」数をみると、1.3本となっており、10年前の平成9年度と比較すると1.4本減少しています。

全国平均値と比較すると、京都府は0.3本下回っています。

図6 12歳の永久歯の1人当たり平均むし歯(う歯)数



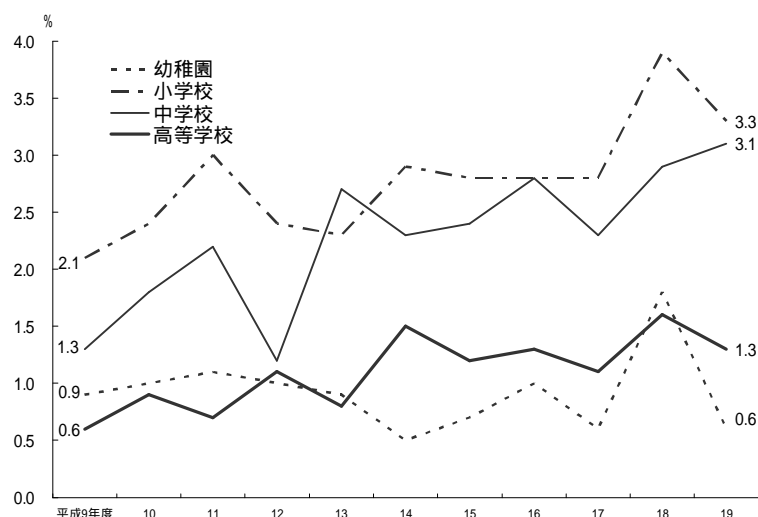
【ぜん息】

(図7)

平成19年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園0.6%、小学校3.3%、中学校3.1%、高等学校1.3%となっており、前年度と比べると中学校を除き各学校段階で低下しています。10年前の平成9年度と比較すると、小学校では約1.6倍、中学校では約2.4倍、高等学校では約2.2倍になっています。

全国平均値と比較すると、京都府は中学校を除く各学校段階で下回っています。

図7 ぜん息の者の推移



【アトピー性皮膚炎】

(表3、第6表)

平成19年度のアトピー性皮膚炎の者の割合は、幼稚園 4.1%、小学校 4.8%、中学校 2.9%、高等学校 2.8%となっています。前年度と比べると、幼稚園及び中学校では低下し、小学校及び高等学校では上昇しています。

全国平均値と比較すると、京都府はすべての学校段階で上回っています。

注 平成17年度以前の疾病・異常の被患率等の数値及び平成18、19年度の裸眼視力1.0未満の者(幼稚園)の割合は、参考値である。

肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

【肥満傾向児】

(表4)

肥満傾向児の出現率は、男子では13歳及び17歳で10%を超えており、17歳が12.5%と最も高くなっています。女子では10歳が8.6%で最も高くなっています。

全国の出現率と比較すると、男女ともすべての年齢で下回っています。

【痩身傾向児】

(表4)

痩身傾向児の出現率は、男子では8歳から17歳で1%を超えており、15歳が3.5%と最も高くなっています。女子では7歳から17歳まで1%を超えており、11歳が5.0%と最も高くなっています。

全国の出現率と比較すると、男子では5歳、6歳、8歳、10歳、11歳及び14歳から17歳の各年齢で上回り、女子では7歳、8歳、10歳、11歳及び13歳から17歳の各年齢で上回っています。

表4 年齢別 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

区分	男				女			
	肥満傾向児		痩身傾向児		肥満傾向児		痩身傾向児	
	京都	全国	京都	全国	京都	全国	京都	全国
5歳	2.43	2.78	0.46	0.26	2.38	2.96	0.34	0.43
6歳	4.34	4.79	0.97	0.39	3.64	4.70	0.51	0.55
7歳	4.36	6.77	0.37	0.38	2.12	5.71	1.31	0.66
8歳	7.07	8.09	1.70	0.86	4.33	7.50	2.02	1.06
9歳	6.51	10.23	1.48	1.56	6.29	8.16	1.69	1.77
10歳	7.22	11.59	2.84	2.54	8.60	8.92	3.80	2.88
11歳	9.38	11.64	2.94	2.85	7.55	9.47	4.99	3.36
12歳	8.89	12.41	2.10	2.38	7.34	9.67	3.97	4.01
13歳	10.11	10.84	1.37	1.64	6.50	8.99	4.68	3.57
14歳	8.20	10.22	2.33	1.63	5.69	8.75	2.75	2.69
15歳	8.80	13.47	3.49	2.38	4.37	9.87	4.46	2.38
16歳	9.93	12.92	1.75	1.69	6.35	9.18	2.00	1.83
17歳	12.45	12.87	1.80	1.38	7.17	9.23	1.78	1.42

注 肥満(痩身)傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上(-20%以下)の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)